あすぴあ
登録団体の紹介

こんな活動をしています

Vol. 10 あすぴあ登録団体の中で、希望のあった団体を訪ねて活動を紹介します。取材希望の団体は、あすぴあまでご連絡下さい。

安心・安全ウォークネット墨

週2回、夜9時頃から「戸締り用心、火の用心！」と大きな声で防犯、防火を呼びかけながら近所を見回る活動を約10年続けているグループの代表、久保田進さんに聞きました。

平成17年1月、自宅近くで火のついたタバコが投げ込まれて、自転車の籠にたまった枯葉が出火する事件に遭遇した久保田さんは、近所の見回り活動とこの活動を通して近隣の住民たち同士の"つながり"をつくろうと決意。親しくしていた男性と二人で2月から活動を始めた。

最初は、「うるさい！」とおばあさんに叱られることもあったが、回を重ねると、「お疲れ様」とジュースや野菜をくれる人も現れるようになり、「引っ越して来たばかりの頃、近くに知り合いがなく、出産を控えて心細かった私を元気づけてくれたのは、みなさんの声と拍子木でした」と、女性から感謝されたこともあった。

見回りをするメンバーも増えて12人になった平成18年には夜回りコースに住む男性が、東京新聞に彼らの活動を紹介する文章を投書し、これを読んだ消防署が久保田さんたちを表彰した。揃いのユニフォームをつくったのもこの頃だった。

活動は近所の見回りだけではない。「近くのアパートから子どもの激しい泣き声が聞こえる」という連絡を受けると、その子が住む家を訪ね、母親と面会して話をする。

女子高生が通学時に痴漢にあう事件が発生すると、早起きメンバーが犯人らしい男を見つけて捕まえる一方で、災害時には避難路ともなる浄水所脇の道が真っ暗であることを、東京都水道局長に伝えて照明の設置を依頼。1カ月しないうちに10カ所に照明がついた。また、建売住宅の建設現場の近くで下校途中の女子高生が襲われる事件が発生すると、すぐに建設業者に交渉して照明を設置させた。

このように、メンバーが一軒一軒ピンポンして近所の人と顔が見える関係をつくり、地域の問題を一つ一つ解決する一方で、防犯・防火のセミナーも開催して、久保田さんたちは地域の人の信頼感を得て行った。10年続けて1000回という見回りの目標はもうすぐ達成されるが、「肩肘はらないで、笑顔で挨拶できる地域にしたい」という久保田さんの思いは変わらない。

ユニフォーム
武蔵野美術大学の学生に墨の文字を入れた夜回りコースをデザインしてもらった

DATA

活動日●毎週水曜・土曜　21時～22時
活動場所●鷹の街道に接続する元中宿通りを中心とした周辺
参加費●８名
連絡先●090-7002-6896（久保田）

地球クラブ

ベトナム料理
ゴイ・ガー
（とり肉と野菜の冷菜）

外国のおいしい料理を食べると、自分たちの味覚との違いや反対に妙に似ているところを見つけて、今まで知らなかった外国の人々の暮らしが急に身近になったような気がする。その国の料理を知ることは、その国の生活をじかに体験できる、小さいけれど貴重な国際交流だ。地球クラブは、前身である「エスニックの会」の頃から小平在住の外国人主婦や留学生を講師に外国料理の講習会を開いてきた。

第一回目のスリランカから始まって、ミャンマー、パキスタン、メキシコ、オランダ、ネパール、チベット アメリカ、インド、バングラデシュ、ウクライナ、韓国とこれまで招いた講師の国を挙げていくと、まるで料理で世界旅行をしている気分になってくる。そして、各国の講師たちが料理をしながら母国の文化や風習を語る講習会は、まさに小平の日本人と外国人を結ぶ交流の場だった。

こうした活動を続ける一方で、本当の意味で外国人を理解するには、その国の核である言葉に触れることが大切だと留学生による会話教室を開いた。英語、中国語、ロシア語、フランス語の教室。また英語を母国語としないアジア、アフリカ、中東などの留学生と英語で話す機会もつくっている。

「料理教室などで留学生を見ていると、意外に日本人との付き合いがないことに驚きます。彼らにもっと日本の日常を知ってもらいたい、それには食を通じて触れ合うのが一番です。料理の講習会やそこから生まれた会話教室で、ベトナム、オランダ、イラン、ドイツ、カナダ ウズベキスタンと、いろいろな国の人と話をしていると文化は違っても人間は皆同じだなと感じます。そういう意味で地球クラブは世界を縮めた？のかな。」

日本で暮らす留学生たちの様々なトラブル解決のサポートにも力を入れていきたい、と代表の大友恵子さんは話した。

喫茶店の小部屋でイラン女性に英語を習う

DATA

活動日●不定期
活動場所●津田公民館、学園西町地域センター
会員数●30名
連絡先●042-343-7116（大友）

苔　玉　会

中央公民館のサークルフェア展示会場で「苔玉会」の木村代表と高野さんに素敵な作品を見ながら、お話を聞きました。

二人は中央公民館のシルバー大学45期生の仲間で、「イベントづくりの勉強会」でのテーマ「苔玉」「陶芸」「写真」のデモンストレーションをしたことから、高野さんの呼びかけで「苔玉会」を今年10月に立ち上げました。

「苔玉」は盆栽土の"あそびごころ"から始まったと言われているそうで、三種の土（赤玉・腐葉土・ケト土）をよく混ぜ合わせ、園芸用肥料も入れ、植物の根を包み込むように玉を作り、苔で覆い、木綿糸をぐるぐる巻きにして固定し、器に置いて育てます。自由な発想で短時間でつくることができ、手入れも霧吹きで水やりをする、と簡単そうです。

「苔玉」の魅力は？と聞いたところ、「自分の好きな植物を使ってつくり、育てる喜び、育てていく過程で苔の中からいろいろな芽が出てくる意外性、変化していく楽しみ枯れてしまっても再生させることが出来ること、苔と植物の相性を見つける楽しみもあり、仲間と野生の苔を採集しに行く"苔散歩"や器を選ぶ楽しみ、自分が焼いた器や気に入った器に飾る楽しみなど数えきれないほどの喜びがある」と話していました。

松やモミジなどだけではなく、シクラメンや葉牡丹、ビオラなどカラフルなものも「苔玉」にして展示されていて可愛いものもあり、心を和ませる作品もありました。会員が撮影した写真は、とても美しく輝いていました。

現在の会員は、5～6名です。苔玉づくりを通して会員相互の親睦と応用創作の向上を図り、興味ある人たちに伝えていくことを目的にして「苔玉会」は活動しています。

葉牡丹をあしらったカラフルな苔玉

DATA

活動日●未定
活動場所●小平市中央公民館、小平元気村おがわ東
参加費●実費
会員数●6名
連絡先●042-312-3646（木村）

こだいら国際協力プロジェクトSeed

「国際協力のタネ（seed）を蒔く」という意味のSeedができて4年が経ちます。中央公民館講座「わたしたちの地域からはじめる国際協力プロジェクト」終了後、すぐに受講生が立ち上げました。日曜朝の定例会でみなさんにお話を聞きました。

Seedのみなさんが講座に参加した理由は、「市民にできる」「自分の興味あることが地元でできる」ことでした。全26回という長期であるうえに、自分たちの企画したイベントが実行できるという新しい講座であり、それも魅力でした。会員は、仕事が海外と関係がある、他市のフェアトレード(*)活動に参加していた、在日外国人を支援している、家族がJICA(*)勤務である、シャプラニール(*)でボランティア活動をしていた等々、これまでも国際協力に関心があった人たちばかりです。

Seedのみなさんは、こう考えました。国際協力って遠くにあることだと思っている人が多いのではないか、地元でできるなら、やり方が簡単なら、自分でできることなら始めたい、と思っている人が多いのではないか。そして、「そう思っている人たちと支援を望む人たちとの仲立ちをする団体がないのなら、自分たちでつくろう」と決めました。フェアトレードのコーヒー・紅茶を提供するカフェをひらいたり、商品を販売したり、シャプラニールが提唱する「ステナイ生活」運動にも協力して、使用済み葉書、古切手、古本、インクカートリッジなどを回収しています。寄付した金額の合計は、4年間で40万円を超えたということです。

振り返ると「行事に追われる」ように活動してきましたが、小平市市民学習奨励学級にも応募して国際協力の勉強と周知に努め、イベントではテーマを決めて（H26は子どもと学校）展示物もつくりました。あるイベントでは、ナイジェリア勤務だった来場者と会員（ナイジェリア国籍）が英語で楽しそうに会話を始め、その人が会員になるということがありました。イベントの度にご縁のある人との出会いがあり、活動が広がって、今ではSeedと言えば、わかるようになりました。Seedが蒔いた国際協力のタネは、芽を出してぐーんと根を張ってきているように見えました。

(*)フェアトレード：公正貿易。「南」の生産者と「北」の消費者が対等な立場で行う貿易。／JICA(ジャイカ)：独立行政法人国際協力機構。開発途上国が抱える課題解決を支援。／シャプラニール：日本の国際協力NGO。特に南アジアの貧しい人々の生活上の問題解決に向けた活動を行う。＜それぞれの団体のホームページから＞

DATA

活動日● 奇数月第1日曜日、偶数月第1土曜日
活動場所● 主に小平市中央公民館
会員数● 13名
連絡先●042-332-2097（渡辺）